

「あいさつ 返事 感謝」  
遠山中学校女子卓球部

市民の  
ひろば

9

September



勝つ楽しさを目指して、ラケットを振り抜く



そして、苦しい練習の先に待っている、勝利の喜びを今のメンバー全員で味わっていききたいです。

先輩の応援に行つて、関東大会に進出するチームは、技術ばかりでなく、マナー面もしっかりしていることが分かりました。卓球部のモットー「あいさつ 返事 感謝」を忘れずに、どこに行つても恥ずかしくないチームになつていききたいです。

部活の顧問は、末松猷二先生。卓球指導歴11年のベテランで、技術面はもちろん、「礼儀やマナーを大切にすることや、「試合で勝つよりも人間として大切なことを忘れない」ことなど精神面も指導していただいています。



齊藤 舞 部長(2年生)  
「関東大会に行つても恥ずかしくないマナーと技術を身に付けていききたいです」



きつつき会(木彫り)

虎は死して皮を留め  
人は死して名を残す

わたしたちは、第2・4金曜日の午後11時  
住公民館で、木彫りをしているサークルです。  
指導は飯田俊六郎先生にお願いしています。  
先生を含めたメンバー4人のうち、3人が80  
歳代ですが、まだまだ創作意欲は衰え知らず。  
日々、作品の制作に勤しんでいます。

木彫りといってもさまざまですが、わたし  
たちのスタイルは、下書きした紙を原板に貼  
り付け、文字に沿って周りを彫刻刀などで削  
り、文字を浮き上がらせていくというもの。  
非常に細かい作業になるため、繊細な技術が



大切な人への贈り物、一緒に作りませんか



細かい字には細心の注意を払う



一文字ずつ丁寧に金箔を施す

求められます。作品によっては、文字部分に  
油性漆塗料を使って金箔を施し、豪華で重厚  
な作風に仕上げることもあります。

気に入った文章や詩などを作品にし、孫や  
親戚、友人などにプレゼントするのが楽しみ  
です。

「虎は死して皮を留め、人は死して名を残  
す」―人の命は限りあるものですが、偉業や  
名品は、人の名を後世に語り継がせる。木  
彫りだけに限ったことではありませんけれど  
も、自分の思いがこもったものが一つの形と  
なり、誰かの手元に残るといふのは、素晴ら  
しいことです。

木彫りに少しでも興味を持った方、きつつ  
き会で新たな趣味を見つけてみませんか。

スクスクのびのび 347



**福田 莉咲ちゃん**(3歳)江弁須  
「ときどき大栄(じじとばば)の  
おうちへ行ってあそぶのがだい  
すきです」

**田中 心浩くん**(2歳)土屋  
「お稚児の衣装にご機嫌。大好  
きなためきの置物とニコニコ写  
真がとれました」



**藤城 智彩人くん**(7カ月)中台  
「初めてカメラに向かってニコ  
リ。この笑顔で皆元気になります」



**中嶋 倅大くん**(7カ月)十余三  
「7カ月とは思えない程大きな倅大くん。  
毎日、笑顔をたくさんありがとう！」

**鶴岡 蘭亥杏くん**(11カ月)小野  
「この衣装はイランのおばあ  
ちゃんからの贈り物。パパの国  
の民族衣装です」

